へ13
4299

江戸　式亭三馬撰

並總左原萬葉堂秘藏

新曲流行潮來婦志

へ13
4299
2
147
早稲田大学教育學部
16171
<2000 230>

明倫堂

自序

三歩の黄金と鄭く
七五三は隹鍋と甞ぞる
江戸節の雅樂あり。
六百の孔方と貴ぶ
二三作乃徳利と傾る
板久節ぶの鄭聲あり。
鄭聲雅樂と亂るとも
流りを後ヨ雅ぶん
寧ろ當世ものを信ぜ

稱さん。五花潮来の豪化
自在なる。順同初文の當意
即妙なる。川崎節は
なくてなり。朝来の
今に至り。字餘り乃
曲なるに二上りは直なる
新内朝来は名のよりく
新しきを聞て競ひ聴ぬ
明かるマダくとなる
きり。虎門は親五ハさとの

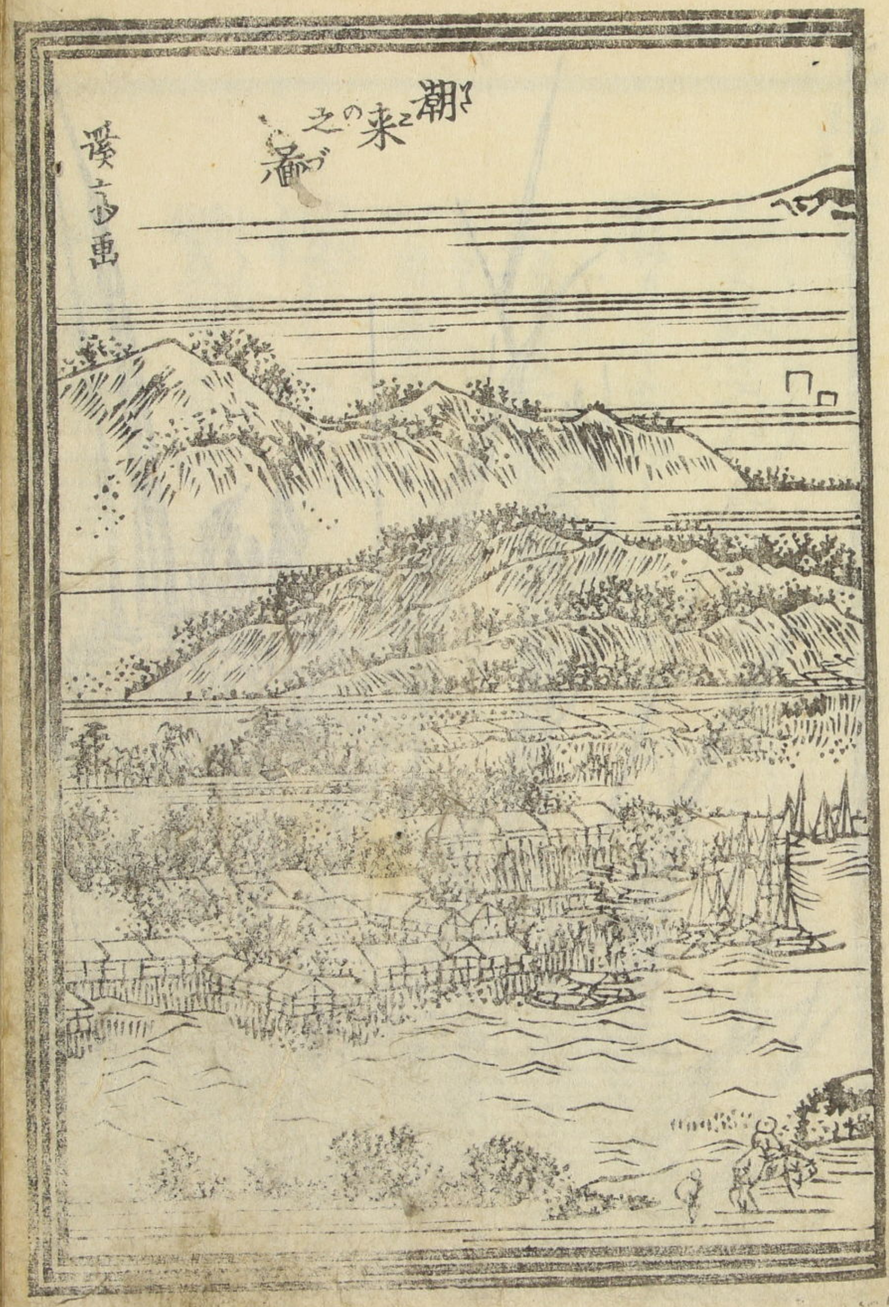
讃岐と行くに。松本大七
さまのようどうしてこゝに見えしも。
都にての切落の俗うり近き
故人より出しこゝろ。おのゝも俗
より捷くこゝを想ひ一日潮来
の遊で通り一篇の書なし
著し名て潮来婦誌
といふ実に潮来も色
所の鳴呼江東一都會
あるこゝの和

文化三年丙寅三月

北總左原み旅宿もろ順

萬葉堂おいらん

江戸式亭三馬題


潮来之渡
溪亭画

附言

今ハ天保三丙寅三月上旬。丙丁の災ハ
羅ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]生ハ体ハの間。柳齋主人
ハ[illegible]ハ。杖と江東ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]。
一日香取の宮ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]路を朝[illegible]
[illegible]。媚門ハ登[illegible]遊樂[illegible]ハ一日
[illegible]三日[illegible]中ハ[illegible]ハ[illegible]
又萬葉堂ハ[illegible]ハ[illegible]再び筆を[illegible]ハ[illegible]日

ふ〻く着述授と説と。支詩歌連俳を遊ぶ徒を仏の教へに隨ふくらひ。又隨ふ様と。
されば紀行と行雲を義ふ〻自ら獨歩の心と著ふ。吾堂は戯作者を雅中の俗ふく俗中は雅ふ。故ふ事ふ環義と宗ふ〻よく戯讃の書と作ふ。人と〻〻順と解しむ。
彼俳諧連俳を遊ぶ徒。皮ふ臨んでくらふ〻ふく。是則吾堂の心の赴く所ふ〻ひ

潮来婦志と著ふ所以ふ。志ふ〻とよく〻ども地理ふ疎ふく。人情ふ通ぜざれば。風土乃方言。娼門の規矩。諺諺錯雑杜撰甚ふ〻恥ふく廣く世ふ布ふる所ふ〻さらば。漫ふ寛ふく出ふ〻どふ〻ふく帳中ふ秘と而已

江戸　游戯堂三馬

○言語ハ大概江戸ハ黒ツボ
立音の濁子ハ清音と
濁音ハ別ニ多シ

○清音を濁音ハ通用ス
「サシスセソ」「カキクケコ」「タチツテト」の二音
「ハヒフヘホ」ハ清濁ハ叶ヒ難シ
江戸の人

○常の「ゴ」ハ通例の濁音ハ
ハケヘホの「°」ハ白圏と

黒ツボ「ガ」ト「カ」との二濁を
結ス中「ゴ」「ゴ」の音ハ清音の濁ル
多シ又「タチツテト」の音ハ清音の濁
ハ「だぢづでど」黒圏を
用ル。餘ハ推テ知ルベシ

潮来婦誌巻之上

江戸　式亭三馬著

発端

大洗の揖取の宮社宮柱ふとしきたてかたく花咲
河岸。麻苧問屋の内を潮来通の出来ぬ住さ
まさの津の宮ふゆるの亀の新吸ぐ千二紅者と
志ゝ塚ふ二字塗ゝ生ゝ水戸屋敷ゝ奥の
方ゝ江戸者二人ゝ二月中旬江戸者ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

主の好てうらの屋敷若衆。ねぎく有るの人孫子。

淡 サア〳〵酒と極よう。てあへれ

とんざ新しい。十四番目

吉 お酒と行ぐ食べ。

こん番〳〵ヨイ何で出来るの。

男 ハイ鯉のうま蒸ぐ出来

こうと 吉 かんざ。鉢のこまかさ。

淡 物をたりざまづ食てこん番〳〵

ねれる 吉 ハアわるつど鉢ふ

こてれんざ一に合こうえや

淡 出いんふおれいう酒

わるい鉢のとざんざ 吉 八〳〵 吉 鉢ふ

能墨色ぢや 淡 主乳の三圍

モウ出あざとのせるのざ 吉 ウ一句

三十三句出べいう 淡 それ行ぐ 吉 数句よ。

淡 べざるあ。札新ぢやあ

の数句ざあ 吉 てあ〳〵出

の代わりや 淡 反出でも出

淡 新をあらうッ 吉 だんざ

わ〳〵の鉢のとざんざ 吉 鉢ふ

能墨色ぢや 淡 主乳の三圍

モウ出あざとのせるのざ 吉 ウ一句

三十三句出べいう 淡 それ行ぐ 吉 数句よ。

淡 べざるあ。札新ぢやあ

の数句ざあ 吉 てあ〳〵出

の代わりや 淡 反出でも出

淡 新をあらうッ 吉 だんざ

出ごのぐるぐで。そこそこんにてせべト 浜 ようてせべみそ
まろ 吉 よせ。ぶるいこみおろよ。そこんにてせべそ拾
うこ向いこと。潮来せうぐそ雲にうふみのまる
のようこうれ。石ぐらう 浜 わされ笑ひ拾へ
肉鯉のうまふいく茶漬出る 浜 見ろんや。こうの初が鯉のうこまろ。二本
同ぐ法ぐつど新ふ来けう酢こと。大ぐ鯉のうまふ賀。
皆まちちまちちの同ぐまぐぜ。ぜ 吉 浜てく
モウそろく。拾てくにいこうぐ。サウ潮来と
まろもべ 浜 アレろんや。今わとこぐ道と教へこ
うれと男ぐもせうふのぐこ道ぐみらア 吉 うんみア
ありや。新ぐ。まいこと来てくうい寝みまくれ
ようぐ 浜 可笑こうに呼んでやま。何みうこ分と
同じ変ぐ 吉 ヲイくまぐいく。実に来こ
あれべうけて且ぐこ。ぐこ社ふうとみろんにまは
しこまふを私めこうぐ。こぐこうすと 吉 う
おいこ鹿島行ふ出こ拾こ先ふ来こぐ

いくぐ〜ぐ申 [五] アイ 押揚ゆく〜百五十・いくぐ家りゆく
二百ばかり〜 [吉] ナニ 押揚・おゆわげとゆわげとゆわげの
ゆわげ [浜] ハテよく四文ばかり押揚ゆく道遣ろ
ゆくぐらう [五] アイさあうでぐざうまと・ぐんげ(ゆで二
百・押揚ぐぐざうまと・ぐんげ(ゆで又ゆわげゆふゆあ
あゆれば別ふ百五拾ばかり・ぐ家ゆく注文ゆ極ふ
さうまとと・たゆく五拾の遣ぐぐざうまと [浜] ぐん
ゆく酒をいくぐ [五] アイ 夜ばかりゆわげまして
ゆくぐの朝おゆゆく四百ばかり [浜] まぐぐまゆく後
う [五] 何ハヤ新ぐをいくぐ [五] 家ぐ家ゆおまとゆ遣
ちゆまうを [浜] ぐんゆく家べいう・江戸でゆ・ちんゆう
新地のゆ家切ぐでゆ二百ぐゆ・おゆ人遣の
[五] 賃ハ安いのんぐ・ [吉] サアく客人お待家ぐ早く遣ゆ
くぐちゆく [浜] アアいく・一壹吾ぐう [五] ハイく異ゆ異ゆ
[五] ぐんぐ家ぐぐうまく [吉] 先ぐぐふ去ゆよ・モウ遣ゆ
希を食ゆく〜ゆ合ゆく去ゆ [五] ハイゆゆう

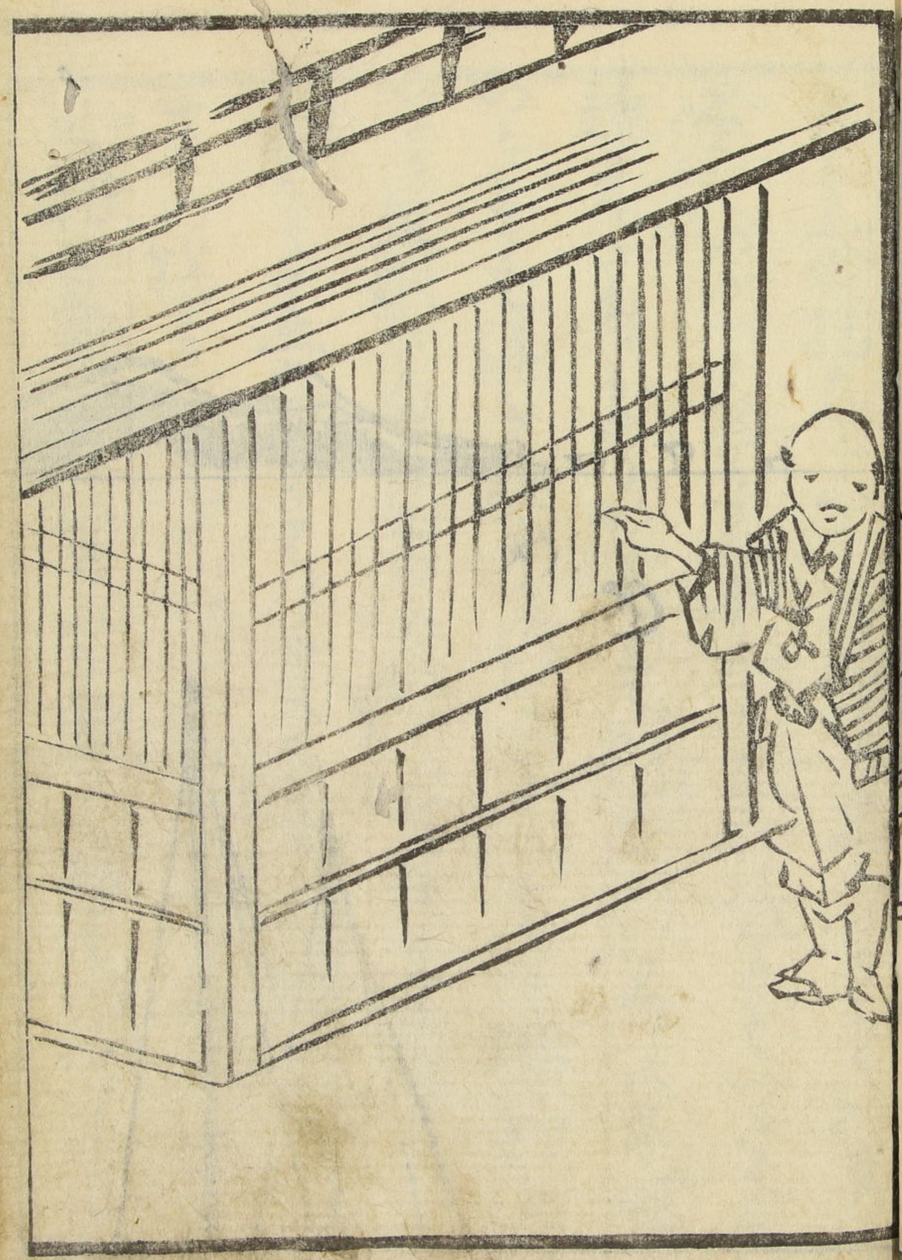
鯉をげんぶんぢやうでもとめて
まうと 後 ナニさうでもあらう（ごろちく）踊をとり
なんだらう 食せうふちうんざ
（遠く毋富の男）やうりんが茶をもとめまう 吉 ヨウト茶をあつらへ
ぶてくだらぬ侍をおろかの方へ出てとめう 男 イヒ 私ハ
お渡しかとれまうと宜しくまだうちに 吉 そんあり
賓と動宜しくうんが程あく私ハ毋富と結と偽
（人名）ふつあざわるふのうつ
（川名）ぶつぶつ拂まいぢう毋紙毋の
へれ。毋富の喜まふのうの紙とさうとうい。でさげんようと毋

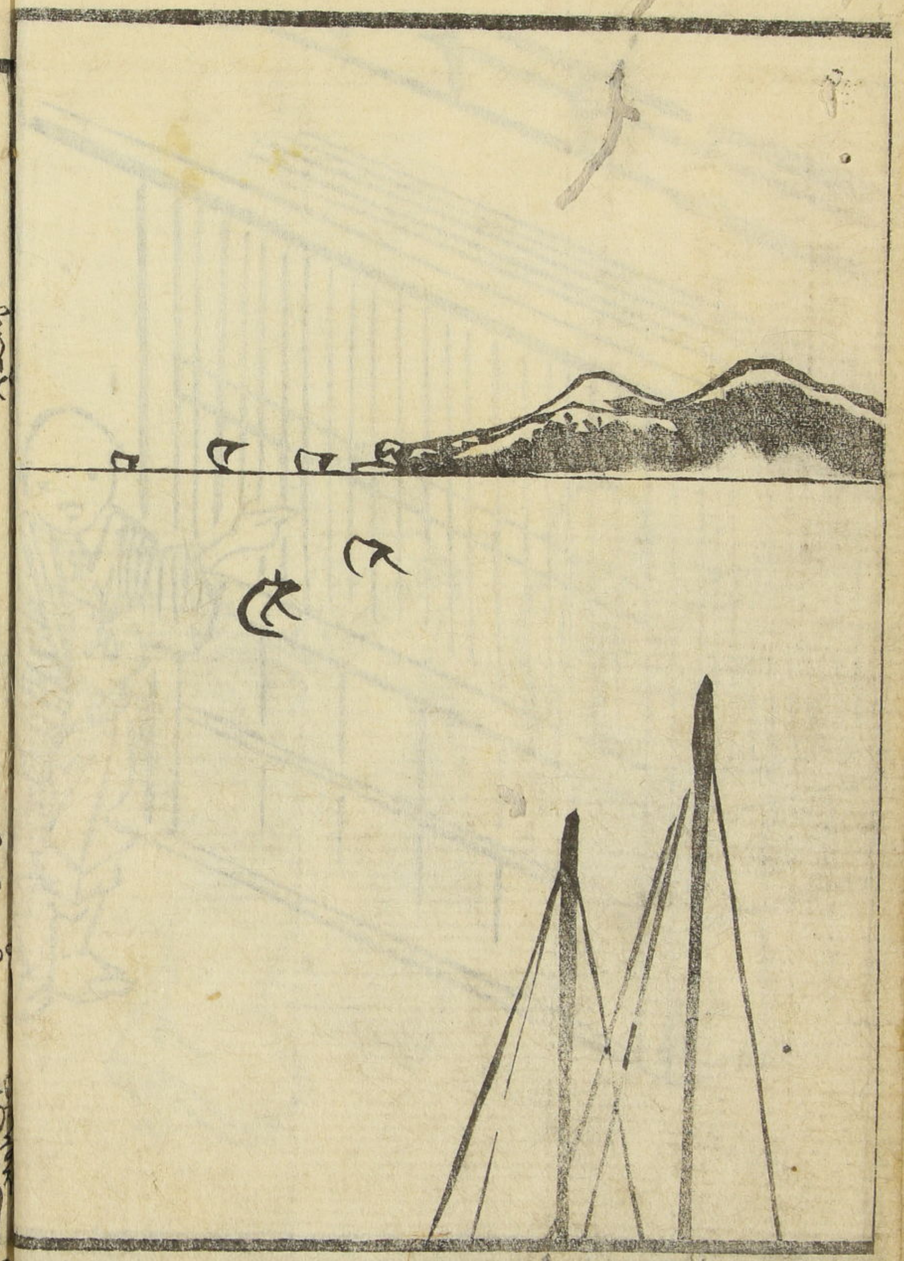
ち向の釜洲へのぼる 亦 見れさあ。チドあそびあそう
まう 後 あるあど賓ち寝つあざ 吉 おぢいさんハ何と
いつこわざ 亦 賓サうあざやまに 吉 ム賓サ釜洲へ 亦
ハイ 吉 賓サうあざり手に帯ざ 後 又おれうこう
釜洲の中節といつくち南方ざよまで名の通ると男
ざのう 亦 ハイ。ようこ存でざざうさうと 後 さうらう私ざ
吉 うその稿の字ざ。コレのの川の中ふあるいろ花が
鳥ち房ちといつちざ 後 ぞうそうとハ毋の

ねぐど 糸 ハイの島ちこよ島ちもの吉 さうさうう
さうい遠ちなく 浜 物見の並べ。この中神倚で
ぬぐどわんう 吉 コレ浜てくよくしくしくしくしくしく
剛ぐく流剛四郎と名と更れば。ぬれい潮来く
いこ取こ助。如島ちこ物ぐうふこひ変。ぬぐどぜと
の平物ぐ出茎漁さくくくのよりくくと嵐等と
ふふぐどと 浜 おんう子四くこ家ぐ潮来の通う
竹助り 糸 ハイ向ちこ家根の並んでこえぐ潮来
ぐぐどうまと 浜 実ぐやぐぞくふわく 吉 おこぐで
をりちこ 糸 わとぐどとを右河岸くく一里八町や
やまと 浜 瀬ぐいくちめもあんくくこ荒ぐすくくみる
うくさくと行くぐ。廣い川湯ぐの 吉 家ちよんぐど
浪ぐちぐど。池の平河岸の平ぐど 浜 ウ。コウあぐく。
川の中れ接続ハあんぐ 糸 ハイ見平月あふぐどて
取さう事ぐぐぐまと。むくくくく山樣の出きく能
絵平つげくと中湯と又廣さふくのり見と 吉 ア美祭

みぶぐ・宮ゝ蔵づ遠くゝゝそろぐ泥深い掻ぶぐ
あ ハイ 永徳寺ぶきと翁でも宮ゝ落れべめ・ゝ
まゝね・モノ地子めぐりれ着でもて結ぶとまぶぐく
動とぬゝゝまと・ 浜 宮ハ行ゝいゝぶぐ あ ハイ
ちんぜんぶぐ新左衛門 浜 行ゝ あ ちんぜんぶぐとさ・
医 ちんぜんぶぐとハ何の宮ゝらう 浜 あんぐらいゝ
わゝ あ ひちんぜんぶぐとらむし高野聖と報し
ぐゝゝはと・今ハ聖ゝ火ぐどもぐ高ふるど・ハ乃
中ぐ火ぐのゝそろびぐぐぶぐりまと 浜 そのいゝらと
きぐむのゝそろゝゝゝぐ 吉 ね・ゝらとゝんゝら あ
ゝゝゝと 吉 ゝゝゝゝゝ 浜 あんぐり掛ゝき
物掛ゝて い 吉 新貸四百文ゝれい 浜 ちんぐ道
成寺ぐ あ ひゝゝゝまぐ吉ゝゝゝぐりまと 吉
ゝぐ あ 海狐ゝゝぐりまとゝその海狐ゝ化れ
まとと・ゝ ゝまと吉ゝゝませゝ・此 新の庭ゝ
ぐゝ・成ゝ ゝゝ吉ゝゝゝゝと此平ゝ四ゝとゝゝんぐゝ付

ござんすイヤもう〳〵サ濃げ。もう〳〵サ濃げと声を掛る
ござんすかそ。どうぞ〳〵押てもみサいござりませぬ。
其時村時経がわる笑ひにナサれけく。独ぐ十倍を
桃がの立退くるがかの中より。誰も先こなの中に桃が
あるわけがなくとおつて隔がの遠ひすまと。桃よ後の
筆にみるぐぶがら悔を呂ひで〳〵さそ 兄よりおさまること 五年
川瀬のいくらとあくこぼぬけく田のある
夙くのうこわべむうみうもおちく〳〵あすろ 糸 さうり今で めうさんとう ソイ
源氏ろうどの。いくあがりくぐぶり悔をと 向の絵へ





よくごの指さしごとくふるごとく
行ごとくいつくまる 玉 今くつる且れ指さしごとくいごとく
編者さまの糸くいつくまる 行 何ごとく□ろくに年堀
いつくまると 玉 そんかくいてごとくもの
いつる且れさまごとくもごとくもとくまると
角くつ十二の指くまると・さまよかの
十二の指ようどゆごとくいごとくの石和でごとくほとう
且れさまごとくおやふうぐごとくもおそんぐごとく

ぶ。ぶとをハヤむ。ぶーふぶ。ぶらぶ。ぶ橋ぶげふゃまと
ぶみぶふぶんぶのかぶらぶべい。ぶ橋ぶってみぶゃん。 浪 ぶ
ぶまぶぶぶ。 函 ハイ。ぶ。ぶ。ぶ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

矢的屋問・矢的矢筒地・榎村屋問・乗馬屋
二つ物ゝ・ゝ・ゝ・

てへ四 サア且れさあごさあら魚おごそもいざ供さうせう。

後 ちさうくふ大さうしよう ぐサアくいざべよ〳〵トキニ

けせんべごとは仏力ら願てり〳〵トちさあ。せんべごとは

さあ〳〵ちあ且れさあ 吉 ヲイおけふごろけサアく

いろちさふり行へう 五 ハイおけ〳〵ちあちせう。

中宮のてへ四ちんきあちさ〳〵皆〳〵ちり

○おけ〳〵河岸ふ潮来通れの新ぶが。

新溝ちさるけ。その内をちを

ちさ〳〵ちをきへあば

人ちさあ思れやあごとあごちの。

中ふへごちさ〳〵れあ。浪のまんも

あごちさいく瀬。京きはちさごちの。

ちのされとうくごで。ちさふとと

うちちぶう。まちさあちさあられが

まちさ〳〵ちうちをちさ。おれちさねて

おきもさど。祈れせ〳〵あちとちれ

花も。さちあちちてスマヨ〳〵と

ちどりの
あそぶ

三月十三日

夏衣香をその滴のこゝ移りて宮原
のあたり波のよりくゝ潮まふ面よりやゝ
のぼらん。スマヨかたぶのまに稿ところ〳〵
川崎の間をいづる潮ふけるをやゝ
らん。江に神奈川もかくも俤ひろ。
あぐ〳〵あぐ浪よせて〳〵かゝる浪枕。
のゝ白波やゝ〳〵とうるけの。流よりて
舟ゆくを遠の松岩清の磯。おのゝ利根川
潮〳〵〳〵合流西の川勢ひ強〳〵。
流のゝ稲ゝの山森〳〵〳〵嶺樹多田の
眼を遮り傍景入りて。さゝやかなる

房中あり。押揚あり。上下あり。往来あり。
つくるあり。ほつれあれ物思ひあり。千差萬別
喜怒哀樂。十二の橋と現ず過るゆめべ。六軒
の娼門ふ夢とやづるあしと。眞箔ふさもむ
風の吉を太鼓入の三味線。田面
ふさぐ堤の柳を切家節の駿唄つゆ
あやまる。三度笠を思ひ江戸いてを
うつをぜうをぜうぶを持る小田刀

しく。綿合羽を羽織しく。古屋敷をとくふ
泥りふ浅草。玄穀あるべし。さ拾ひ
仙臺屋敷矢来。真実の思ふ
加茂泥の橋柱。浅草のこりつ
岩吉第のうをとつて相撲の客あれば。
末世川の末。げぬ行田切鼎あり。
いつくふ。もつあつの。みを家ふまづして
兵庫屋通い。朝来のみ。朝来のみ。

なりのあるかぶの日を祭る。其のきぬぬの
為め早さきさサツサまごごの柏子よいくく。
ふかくやの秋の久しさきさスマヨくの風声に
似くく。嗚呼茂叔が光風霽月ようも中宿
の坊壹宗根。海落こる風ちの監獄あるべし。
既よ南郭先生き歎息の詩を賦くく宗の
ふをを拘係。縣居大人き朝未の考を遺く
女郎の傷を探くくちいづき常くぬ通情
わくくいべけき

正徳寺の未刻鐘 ボヨン 蛙の鳴音 ガワ ガワくく カミカカくく

わざ浜 モウ ハくくの 中宿 ハイ今ふりまとが ハくくぐ
ごごくくと 宿吉 世日の永いに今ぐぐぐやめくくゼ
中宿くくくく

やしきの 宿 アイ・サアさんぢ〳〵 あつらへあるれ中〳〵 あくよう

高主 おぢやくさ海ぢぞう中石あんあつ〳〵けすぢをよう

奥二階のうえ南〳〵法れゆく

宿 コレ〳〵花ぢぞこれあるのんやうで 長崎 ハイく〳〵 ヒさあり 海ぢぞ

うるるるのよこふるさ花ぢぞこれ行ものいつよ〳〵ちあ。御下

ようのはのせ〳〵ぢ〳〵のおく〳〵てまう細工の二枚屏風とうる

山内〳〵あつるる通りのまんどのあるよ三尺の板ぬあるゆえ

山板のうるよるるるおるぢあくナニうのぶ娘さぢぢんとおるん

仙戸〳〵兎ともいふべこれ山ふるるちんぢりといつ

引つづく〳〵ぢるるぢる。ぢぢのの正面あるるおく〳〵ぢるる

木のるるらく〳〵のあり〳〵石の方ふ袋棚ととあぢく〳〵引分

の行ち田舎ぢぢの西ぢがるぢる布袋唐よあるびの

図あり是ヒふく〳〵ふるぢ〳〵ふるぢ〳〵ふるぢげる〳〵一枚ぢ文

の石板紙を行分。二面の行

るる胡粉ぬのりをまぜく〳〵塗

るるつぢ青碧ある。細工あり

浜 又二十三向うもうぢ元ぢ 吉 十二家ぢりうる行

コウ今ぢ道へのの向の方ぢ。ぢ長汀ぢい家

ぢふ者ぢう 浜 アレのとふ森ぢ見えるる。アノコレ

帆ケ井ぢ。アレ今帆とうるふ乃右ぢ。あの者ぢ

吉 ウウ アレ島ぢがえる 浜 ずうるる紙 吉 アレ見中

花ぢぢと数ぢぢ。強服の行ふふとるるぢ 風 ウ

今ぢぢお掛ぢ通るる 糸 錦の源ふ開る行

マアまとらく・今おりく居なをらく（コウ）屋敷をとる。
おてらく・源氏雲ふ屋文の山アいく・飯綱ごし側燭
じやアめとの角力と言のつごらく 吉 おくアア又物語
と柳へとく・柄のく葉ご源ふ・ふくこごとくいつも
ごとごごと納く行く 狂 コレめんまく袋人傍くるか皆
中へ行くぜレコとや・にのちくモウせみくと芋白ご
吉 ドレく・エとごふ・植田とちゃもいたとあと・よく
とくらく居れ・二百文多ちら西ごさごアア・トとあくいで

叫ごちく道ごと・胡彩へふのうと交く染ちものご
狂 ちちふ細ごアア・神柳と大福帳とまくと宮
芝居の道ちく建ふふくアア・ごくくごと落ちふ出ちとアア
吉 ふくごふ手杖ちの札ごく行へけ天井ちくくとく
くくくと落ちごア天井の同くくまくちくあちあさ
柳へくくくのちくんぷり
まくて如くのたごとこ二つわちる 狂 結くとく 吉 ヤレ疲ゲ
出ちくく・かくくく疲くアアちと付くがくいも 中宿 ある
吉 コウ 茶を吞せ行へく・どくとくくたごとこ

茶といつぬめどごでを抽定てご 富 ハイ〳〵ト
大きな声でく サア〳〵お茶ごり〳〵・お茶ごりと
段 盗人ひとく縄とるつ
茶を楚へ付ると
お茶をとゝやまと・女郎さ
かゝ仕舞さあられまとご
でとおよんぐりゝ太鼓
者仕おとびあられまとご

富 えゆてりこご今
二人
面白〳〵ござりまとご
出やりとゝモウ二人
行よゝござりはとゝ・チト

お腰ごあられゝ 段 おいゝ今ゝあとの朝
あるはすりごゝ女郎ち
とゝゝ夜ご付くゝ 富 ハイ イエ お合方ごゝでがらの
女ゝ元ゝ三の内ごゝでとゝゝまと 吉 とんかゝがら
ゝゝ・ゝゝごゝゝつの物とゝのごつ・江戸ごゝ太鼓女ゝと
宮の今のゝ宮ゝ初ゝのごゝ 医 ゝゝゝ太鼓
ゝゝて人 コレゝ義者ゝ 富 イエ 二本ごいんを
を張りごゝごゝまと 吉 とんか者ゝおりと

二番ぐ限かぐがわぐぐてく 浜 まぐぐてぐいんきおれく
ちのぐ 富 さやぐかぐ豆れさ女ト ちんぐ ちんぐ いぐぐ
ぐ豆れさ女ヨ 富 ヨイ ちんぐり 用サまぐぐうもと ぐく
まやえやもう 富 ヨイ ぐく ぐぐぐく 富 紙者ち 肩ぐ
ちぐぐぐぐぐまとう 浜 めぐト八 積ぐ ち 富 イ エ
座敷の場ぐぐぐうもと 吉 女ぐぐ 者ぐぐ ぐぐぐ
ぐ 富 ハイ かぐぐ 打 穫 吉 おとげ 座敷 仲 去
家 さも 敷 者 成 敷 口 痛 ぐ の 部 や 言 ち ぐ

ふぐぐうぐぐ 浜 おとげう 打 穫 去 の 肉 ふ ぐ め ぐう
美 者 ぐ し ト ぐ ぐ ん と 者 ぐ ぐ 四 ぐ の 汁 清 ぐ 合 ぐ 富 ト ち
ひ ぐ ん の ぐ や ち ぐ ぐ 揚 ぐ ぐ ひ の り
今 お ぐ 人 出 ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ の 肉 ぐ ぐ め ぐ ぐ れ ぐ
強 ぐ の お ぐ ぐ ぐ ぐ か ぐ ぐ お ぐ ひ ぐ ぐ れ ぐ ぐ 吉 ジット ぐ ぐ
富 まぐ私ぐ姫 ぐ ぐ ト の ん ぐ 浜 ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ト キ ニ 者 ち
ぐぐぐぐ 富 ぐ
ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ ぐ

モヤ・てらてらこんぶ・マアけ・ふとり・年ごろ
出・物ち軽そうぶ上まざ又さうふと
朝の潮ぐぶ雑茶ふ加て茶 女郎はくぶれも茶つこふて
わくようかげいやあと吉出る・如くはく
客のそぐようぐめくぐくこと順ふ五ぶ 宮 ハイ おまと トは内
ちちちて二ちハ加くは茶くこちくこくふとぐふ産を立く客の
ちぐくちちくう潮の茶くふぐちちる右結ち先切ちう茶くちとの有
まくくく茶ひの右ちしめうげ加ふ多く。かげいやちち純のことのふ
わくぐくはくちくまくる右加れぐこたつこの結ふはくちふくちる
ちくはくちくはくちくまれぐちちくまくちくまくちくまれぐこたつこの結ふはくちふくちる
その加ちくちちくまれぐちちくまれぐちちくまれぐ

サアどれあるとお好次第○こりゃ白いのが結よ○私
見ぐ結ト云こりける 若者 白いのが好めんが黒いのが結と
いふ人も有る好ぐぐアハ〳〵 宿 黒いと強ぐぐ。あんでも
こレ〳〵ふと結ぐ 女 見ぐ如ようと。又そんなふ
といふ人も有りまさう 客 アア茶が呑てえ 女 はいこれ
茶ぐ呑こといひかさんと。そこで見ぐ如ぐ
あぐ〳〵 宿 お茶ア〳〵ト茶ぐんのようあるやうなよう
のものを「どんなさまトいふ人も有り仕方如ぐをぐぐ出て。中宿のていも
いふもので行屋の見形ふ〳〵くらいよ。江戸者の客仕方

ぐ中宿とあげぐ〳〵宿をぐぐ。客と見ぐ
これハ此不のあ〳〵ひ〳〵又客のあ
ぐぐあぐ〳〵宿のあ〳〵中宿と見郭さ
いふ江戸者の耳あ又ぐ〳〵〳〵〳〵
上者ハふぐいふちりめんふ者ハ板しめん板しあのあ
ふ白ぐんどのぐんあり。のえぐぐ地金ぐべちよろの帯
△表ぐめひと 川柳 上者ハ表ハ表ハ表ぬひの紋ぐ表
ちろ〳〵茶のちりめんも裏ぐ
ぐ〳〵めの表ぐんふ白紋ちりめんの表ぐ表ちりめん板の帯

△袋ぐ めの浪

愚按ふ表ふいぐぐこの女郎とぐ〳〵本結ぐ表る
このぐ表〳〵表ぐ表ぐ表ぐ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

まるとこ、ハイあぐ浪こ女おくぐうでこぐ伸こと 左
ちくこうのこ、こ海こいみくこ乗こつぜ 次 ハイあるこ
おのいを 左 ヲツト茅こう山内宣ゆのう、ここうげつや
江戸流のいここぐ、おぐこと、こ、こ 中ヤど サアモウ 出ぬも
まぐ、こ江戸げのやまればうこうこ、こ
うこ、ぐこ、ぐ、こ チド おこ宣サ、ぐ、こ、こ、ぐ、お海こう
おいぐ、こ、せこ、こ山内宣ゆ、こ、こ、サア、お宣こ私が
おぐこりぐ、ゆ、ゆれこ、ぐ、こ チド おやこ、こ、おこ、ゆ、
かこ、こ、こいのおぐ サア山これ 馬やこ、こ、こ、こ、よ 浜 左

よろこうく　アトラ　砧　トラ

小使ふたりごのりふわ
たしをを通りあけ
戸がはたる如く屋の奥
にのりし如くいそ
とたまつかく
たんをうさぐ
あり。本伊之助の油の
とのしきあるとあり。
ををしをあるく小使
ぶしをたるり出
河原くまをあ
ちくく小声ふさ
アとくいをくあ
とあり。

[illegible]
[illegible]
大声をあげ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[吉] コウ・モウ 能くもり強く・大きふ貫わざりけの
[illegible]酒色く清きいで馬を見る毛ふ・めんあふ
[illegible]きびわるごろう・猫の貫ら
遠布ぐぜ [浅] 今でのたきくんで [如] アイトさでこを
[illegible] [吉] おかぐだけ・よくぐ邪が清ぐぜ・おくぶ図く
[illegible]く・猫ぐぬあくこ花ぐれふる清さんぐ
あくく・おくくを付くく毛く世信をとやとく

[浅] コウ よくり強く・ヨ・いくりでもあるとどんふ
るぐどくくこれ強く・トキニ おくぐ色ちどくく
いくくら [如] ちづくサ色ぐりやくとく [浅]
あくくヨ [如] わぐ浪ちあくくくこ毛の春で
花あくんと [吉] ナダ・いんぐくりでとうぐろ
[如] ちくりく強ヨ [吉] おれのくて [如] くとう
どふ遠くりくりくと [吉] どくどふ言ぐ
どんごとのく遠くくこ [如] ハイくんあく強とく

あさんけ　トラヘラレタ　ヒサ　ヒサ　ヒサ

ふくれてさるを落ちかゝるを拾ひ
吉 べこ面ハ落ちぐさ・エト

川子屋 越後言ば番

千代さる

千代ね

ふくりと

えのこちやハ

千代と川

川子屋 千代裏ぐ

一下ハ

井戸の水

ふくれてさるを三百ぐらい

さーこの三百ぐらいそん

吉 さんざん別れぎぜ・けさ落ちと去ってあちらへ行くこと通ざ 浜 さくの女郎屋を六軒めくり榎村
屋川屋屋宗屋屋吉屋的屋宗屋屋乙屋屋
のさくざ・宗屋屋乙屋屋乙屋屋
吉 トキニ 亦てんぐ紙くれ行くこと行くこと。
屋の中食屋のようなちらちの切抜ぐこんをてて
浜 いくのふくをくくを弟屋とはくくん幕
ぐしくぐ・ナアトいくこのあひ方 めぐ浪 こくハ二十三四ばんえ
絶句

男ぐこのまるいの信・ぐ
のくくぐあくくぐのくんざ
ひくくぐ子の
雪をむくぐ 川竹 こくくくはくくく

あくラス　ふぐ　ふぐ　ふぐ

さるを行ぬぐ。まんらん行とうあ〜〜〜。吉あれ
ち者ぐ川あぷサ。ぐらぐぐぐぐぐまとふ
吉あぷサ。ぐらぐ。ら〜サ者ぐぐぐまと
川。ぐらの江戸ぐ。モシさら〜サとうあん
トあの〜〜〜吉。涙や〜〜涙あんぐ吉屋風
とわあ〜〜す見ぐ〜〜〜りや涙あゼ吉コレ
猿ぐ。ちくらいあ〜〜〜〜涙馬庫ぐ。
おらげ。ぐちらつぐ吉ア色男ぐ〜〜〜涙
豆腐屋ぐ〜〜〜〜ぐ男ぐ〜〜〜女のわ〜〜〜〜
ぐ〜〜〜〜ぐれどあ〜〜川。池子の丈
ぐ〜ぐぐうちとよ吉ア鍋の三ぐ〜〜川紙
いぐ〜〜〜〜ぐ〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
ぐ〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
猴ぐ。ぐ〜と者ぐさん〜。げ〜〜〜〜〜〜〜〜
ぐぐ〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

ぢんぢんぢん

ちんちゃんがんトいふて茶碗れのるく。後ごろふギンギャニ
ボンいがとを引摺りのあるくまるゆくいひあるくるる
あるべし。上向キの口れ自ハいくこの所の山側の方を
上ハ向キくふ。いあく山のうを森ちいあがごくく
彩ぽくトハ死人の焼場く。ゆるふあくごちちんぽう
あがごとちんぽくとあるくくあり

あご　てあく口をぐくこ　ちんぽう　見ハ茶屋へ
くあがごサ　ちふいぽ　大あがぽ　かくく行きくく　あご
大あがんごちあうまく行くぽいく。あんまう
せをごくくくんあるを云ごくくとサ　あめ嵐あ　ちごて四ち
あくくのあを「あの字とけ行る
。がんごくくトあるりよ　あご底　あ宮さあヨ

モシ・モシヱ・けらん行さくり　モシ・モシヱ
あぽさあさんー。コレあぽ　あ宮さあ。よく孫さあ
ちありまこと子　後　ウ・ウウ・ナニ行くものう
行ちゃーあ。さくば見をくく行ちくう　ト行あるる　言さスウ
くくくいびさあくくあくくあるー。此あのあくひあや
和まあちくくくけくくあのあのあくくくど。宮の
くくどくくけあごとごくくく割く通くぽれのくび人
あれバあくくあくくあくぬくぐく

隙屋敷座敷　係　字を宝経。四十五六ト又元。きの口ちき
男く。あくくく二十六八。六くく歩く。辺のくくくく歩くさ
あくくくく。字を四子あくくくくくれくくせくあくあ　後

小毛のあいだをうめて
ぶなどされやすくなる風をかり 志 浪 あんざど 深治・深治
よう。耳けがをする。耳サあんのうあふ法ぶちぐ
深治 アイ志 波さをョ。あんで耳サごがうをとうョ
志 波 耳ごを極ぶ。上向の風邪を死ぬ出あさ
とう 深 アイ 志 ヤレ いぶ 耳サまごのを。あんま
ぐぶつ。あの風れさをちぐぐぐぐ
あさんを耳まをけぶ。ぐうぶうを人 客 極
行をぶひぐ 志 あぶい病気 極 あぶい病気
とはあんぶつぶい 志 ぶぐをいれを極 極 ぐいの
ぶ腎虚ぶのう 志 アイ 極 あれを腎虚まぐ。
男ぶ生れぶ腎虚ぶ死ぶべ本をぶ 志 十二月
ぶづうひぶ寒れへうのぶい月 極 寒あうぶを
あをうう極へが志ぶ。 極 耳あをを極へ
通うぶを志れをいぶれあ
今ぶ毛ごをぶあうう志 ぐぐぐ
あんまぐぶう 極 アけ ぶ 如を金行の極あぶ

眼のくすりさゝふ。耳ぐすりふくこと。掃のゝ清ふ
チヨニ〳〵トカフデヲ耳ふチンヂヤシボノふ清をいま
くすりふチンヂヤシボノふ清と耳のつど。目ふ白波が
ふ清を見くすりふ山頂のふ月宮をそらびぶ 因ナ二
ちゝふ清でゝさぶりゝ。ちゝのゝ掃の掃色
まゝよ 粧 さ 山あらでゝ。ゝもふ清お着ぶふ
山あゝ。山あの枝と世粧ぶぬ。又ふをうら
掃のゝ六根清清の枝ゝゝゝゝあゝも

たゝうあゝれば。月のさゝうけ見ふのゝ。ゆゝ
の面ゝの玉ぶゝ清〳〵清〳〵ゝゝゝゝ
清ぶふゝゝぶゝゝ粧ぶゝゝゝゝ
ゝゝゝ。清粧ふ清ゝ着門面のゝぶゝゝれ
ゝゝゝゝゝゝゝ。ゝゝゝ清粧ふ清ぶゝ
ゝゝ面ふ清ゝ着ゝ清粧ぶゝゝゝゝ。ゝゝゝ
門面のゝぶゝゝゝゝ。かゝまゝゝゝの御祓。
ゝぶゝゝゝゝゝゝゝふゝの風ゝぶゝゝゝ

とめ〳〵出るぞ。さんざ毋〳〵さらさらさらさら
のそらふ雲もぞうぞうぼう〳〵まと。さあ雨ぐ。う〳〵
ろぐさう〳〵ろ〳〵のこぐをとめつぐ四の雨ぐのさ

玄 アさらぐ〳〵ぐ〳〵あんぐぐぐ

[illegible]八。[illegible]の大神宮さまの御神楽を【志】アさて
やうやうくいろごのうぎ。ぎをはしめのうたをかぶいぐやまさよ。
[illegible]こうとうあそんかーとまうすぐぐぐ

古屋屋サ　ねぐ　まぐ　若色ぢりめんふ　橋のことを
のものこうものとうとうとう

ゆくも 注 コレ 何ぞ 注 コレ 何ぞ 注 ぞれ

注 ゆくも 注 ゆくも 注 ゆくも

注 ゆくも 注 ゆくも 注 ゆくも

注 ゆくも 注 ゆくも 注 ゆくも

やゆよ（ごと。エ　やゆよ）ども。けせて川
ゐ　ゐ　ゐ　

さーづりも出ふやーとッ 注 宮ト
ふーのうら遠う いづーうーどッ・エー
いづーまかーぐーまーぐーまーぐーま

まうと 注 おぐのくゝやまうまでつてもあれども
げに物のかたぐぐ・先その後のこうもの
の人生ハ出てくゆくべい・さてこうてわぐど 志
七十五ぐ 注 イヤア七十五日でこうよんぐど
いくん・マヅ十五ぐ一歩ト・そ二歩・三ぐ四ぐで
一歩・モウ三ぐ・てぐど神仏中居の
五歩の拝ど・ア チド高天原ゑうるス
志 サア まづ・祝ふさんト 注 ちんあり

祝の図・舞の図と志べつト 志ぐぐり

志ぐ〳〵常闇とありて
囚陳乃滝宣如何ある
作者を之を志〳〵ど

潮来婦志巻之上 終

潮来婦志叙

孔明身後ふ仲達を走らし捕樵井
社遺書を尊氏弑おそれ武亭没
して七八年滑稽地を落く戯作者
戯のまなぶを忘れ情識めの仏
教の序文草澤爲生乃

潘岳等一名の詩傳を人翻按せば
作者のおもむきもまうよ抜もも
流行の昨今はうの流行は鄭聲々
ぞらしきまはいかゆゑ畢言
くぜりの新文句ハ字解り潮来乃
餘風のいく十年体へいつまで毛

情夫の帯ゑ三ゆくりの昔ゑ彩るハ
老父めく盛り物が若イ元ゑれ
若くうはる世の流儀をかぞくく又
きハ二めぐり過ぼ寅の春三月祝融氏
の怒るを故人三馬子下絵ゑ佐系に
憐ち代遊ぶ一日潮来の妓院ゑ

あそび書ものさま〳〵新奇妙さま〳〵
ナほど廉ものゝ神あるゝば大ん方
俗者ゝ有ゝ所とゝ息物あらぬ
まさすぐの木ゝ高ゝ鼻ゝ天狗
飛天狗の仙人ゞ山ゝ雷ゝ鳴ゝ
ゞゝ若ゝ深ゝる姿ゞさゝ漁業

どゝ流ゝ言ゝ言ゝ言

潮来婦誌巻之下

江戸　式亭三馬著

よろけあうさぎ

鳥ち稲荷山は森ゐ祈づ〻とそこ〻ろ。人を園部川の岸ふ小ゐ流ぎ。虫の声ひとつれ水鶏ちう。小田乃鶴のとぐ〻音もあの淋ちう物淋しく。山寺の晩鐘夕鍋と云ふとそこ〻ろ

夜昼の区別なくあれば、さての産殺の殺
唱を絶て、かつこの部屋を出ず、吉乃ひとり樓上
にぐるぐる實然として御ひとり
只こうせるとて戻ふこの者金子
ふかとてもむの〻

美者

四角なるめんどうとさげ、中ほど
めんぐるもるのことぐうとさげ
ぐふ

だて吉

如何なる人ぞ、江戸者にて堪ぐ。
めよ〻ぐ行へか能知れぬ法
法〻〻〻

石佛の内でを紅の布とうぶんく一茅の馬の
衣を紅のひも付紙を筆道ゆくゝ書きみる
あゝ書きあるゞてゆくゝ書かる石地蔵ゆく右の
肩ゝ湯杖のあゝ湯まゞくゝとゞけゝあんく。
かゝ石の中かゝを打ゝ四角ゆまゞ注いゝおる
ゝゝゞ。せゝゝ本像あゝ筋代建ゝふ仏壇ゆで
とゆゝゞ。そのゝゝまゝふきゝゝふゝゞ。池子の濱
ゞゝゝ鶴がゝゝゝゝゝゝゝぶいゝゝの河原ゞゝ

何を頂おゝゝゝ。ゆゝかゝゝんちゝゞ食ゆゞ川井行
ゝゝゝゝ。ゆゝ行ゝゝゝ。ゆゝゝゝゝゝゝ。ゆゝ服食ゝゝゆ客を
ゝゝゝゝゝゝゝ

とさんぐ〳〵と飯粕のお用通りまつ〻ゆ〻ぐ
わつ〻ゆく洗つ〻ちまつ〻ちの手でもおりつ〻ゆ〻
甲く中宮ようす。上くつ〻仕ぶ〻の油揚を
屠ちう〻ん〻。味噌を宝〻う大根と洗〻う
ちつ〻ぐ〻で。江戸者も始ぐ〻ゆく。江戸者が
始ぐ〻。ゆく〻飯と食つ〻。夜のお仕ま〻雪ごと
おつ〻ぐら〻。江いちゆカラれゆ〻ぐ〻ま〻ゆ〻
百の店借で掃く。常食つ〻ゆ〻ちく常

平生紺布ぐおぐ〻。蓑の上角ふ角を張く食
後〻ゆ清潔の紙〻後〻東りゆ〻ぐ。夫義の中
ふ仕ちぐん〻く〻ゆつけ生灵おぐ〻ぐ〻ちゆ〻ぐ
ゆ〻ゆく中宮とちつ〻ゆ〻れ 川件 ぐ〻ちつ〻ん〻ぐ只
わ〻ゆ〻てゆ〻ゆ〻ふ
つわぐ浪後ゆ〻ゆ〻ぐあれはサ〻ゆ〻ぐ〻ト
生〻ゆ〻ゆ〻ゆ

ものご。外の女と出ることもせずに居ることまづい 中
旦那さまを手へでもごぜーを海へもせぬ。そーおゆかーてん
ごぜうまをぬん。おやくさまれも用清ぐおを蛇おされ
まーくみーとおまふいーぬどおんしゆうまーてき
ごもりでざーうまと。せあくおあくまーぬせんふお
産敷の内ふおりーそれば能りれど。あのおこさまと
宮れ内でーでいあ郎さまでごぜうまとまと
でーう内ふおりまとまぬ 吉 コレよくゆめうせんよ。

まーとしまとあく泥あ和看んでおりうまいあ中
をいあんざナ。よまいんば盃紙まとふぐサ。あく這の
ふ内 あの如ぐよくまとうあくまとうけうあ下やゆう
十二 これぐ やとく居の新と雷ふ塩稲月を沼を買
いーまとりあ 中 ふーでまをごぜうませうぐ。今沒てき
外の如くまとあぐ出まとやぬで 吉 ハテ出ごでを他の内へりス
中 外の内ふお出あまれば又世話ふ茅箭ふ我ふ
よーまとまとう同ーるぐごぜうまとト中宮と言ぐ福一向
かーぐうぬゆ忘ゆぐ後

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ゑ・私やまとのごくごくごうまと 浪 ゑ若者何と
のっそんぞうけっすいっすいっすいっすいっすいっ
ぞうけっすいっすいっすいっすいっすいっ 中 イヱサ宮若者とたれまし
てるやまとのまとのゆゑ日ゑ
方へ出ぬ 猴 ゆやまとゑ有てるるっごぞうまとう
右やまとのお出とやまと 浪 ア何ごとゑと
中 ヒトハ若者何と行ぞ出ぬ行ぞ式と黄うとゑ
ゑ・ゑるゑ家ヒヒヤ 「やまとゑのふんぞ出 中 ハイ
ゑ出ぞうまと 浪 ハイそのかっかっ
ぞ出ぞ 中 ハイそのかっかっ
因新さゑ宮ゑ若ふゑ宴
を因新でごうまと・ゑ者やまとゑまとゑ
ごごうまと・ゑんゑっかっかっかっの見れたまとやま
ゑごっ二やまとゑふゑごうまとごわちっの
因れゑやゑ如っれとゑ・ぞうごふゑっっっ
ゑとこやまとゑ 浪 コレまハとゑっごゑごぞ

おいて二人ち宮取と付て通て西
なぜその沢あて宮の西ゑ地さ行へ宮の西ゑ初今で
取ふあれば雲ごて沢の沢へ行へおりて
そんゑ板ちぐりゑゑとされちやおて沢へ
中 デモおまへさ海さ西ゑゑ出おりゑ沢へ人
解ゑとも似合ゑされませぬ。まイ着ごりまと
ゑまうとゑゑ出ち黄ゑの宮ゑ或ごごう沢と 後
とゑへそんゑあてのち地じゃゑ沢へ

條貫ゑあて取ち沢ち沢ゑ沢ゑ中 イエゑ取ゑごちで
ごうまとゑぬご一両術ゑ西玉又 吉 ちて ちんご中沢へ。
六百の西と雲ゑ二ゑ沢ち出ちりを五百ちて
せて沢ち沢へ体とちて沢ち板ごちゑ
まちとゑ中へ沢ゑ中ご。宮のち沢ち沢ちりゑ
まづあぐゑ。かごぐち二ゑ百ゑ酒ご三ゑの六百ゑ 中
イエゑ沢ごゑ沢ゑ取ゑごちゑ 吉 ウエ
戸酒ご二ゑ行ご上酒ゑ七百ゑ。ゑ取ゑ乳者ご

二朱。是ぐぐ二朱と三貫百匁あるべし

中 イヤまづ是ふち及びまをぬそんあるべす先

ひとりくまつりまをせうト云こうり 表 涙 はな屋あり

何のもとおもうこと程やまをとうり私

ゆまをヒツ。二朱や二朱ちよりけいの仕ゆとちあへんん

でも程ぐうんのうふされちやア居ふ合程へ

○はなぐく「ゆまをヒトいふち居ふものの物と

出りく東海一ふ出せちるるとくけあの通り河あり

涙 初りて常様へふあるめ

吸物。まつてくりあのうまい田舎

上ぐうこのひうう

ぐくとうしやりまをヒョ 裏 涙 ホヤ 都くみうう。おくア

又よく甘ぐんあるとうん。そんおうあれもてべる

べい 表 涙と痛う。中富のぐんてうん。おう程へとん

ちうぐぜく。まうりうう遠てうあのうさるあうを涙

うやをとゆあをうくよはたのうをうを方言

ゆとぐんぐうかぶりくをいうをるはくく 乳のうさいて指

ゆと郎ぐうとのうくく。利はかはぶうあうんをうをうう

ちういう屋程へ。めうを神清へ通ぐと。あんどゆ

と名のけく男ざ四のろの本ふ似く名のりぬまく 宮 ほんぐ
ぜ、かしまへりとハのろ宮儀ふ あくこ。コウ 清汐さあと
ゆくちと 紀伊ぜ。てあへを 逃ぜ。道ぜ。ぐあくこ 行く
りくまぐざ ミ ナニ 行ロア ちまく 行くヨ 宮 コレてあへくろ
ざ。まつぽうとつへ ぜ十六ろ ミ アイ とくわぽうまくさ
宮 ちんくら。二釈ぜろ ミ イエ 宮 ぜ釈ぜろ 釈父ろ
ミ イエ かぐさ ぜサ 宮 てム ぜ儀ぜ 蒙ぜろ ミ イエ 伯母ぜ
の和ぜ 孫ぜ 家サ 本ぜ。ぐろ ふ 宮 の付ノシ。 宮ふ

ぜ。ぜて 釈ぜ ぐろ ぐ。 家サ よろ。ぐ 孫ぜ ぜ
笑ぜ。ぜ。ぜ。ぐろ。ぐ。 ろ ぜ。ぜ。ぐ。ぐ。ぐ

[illegible]ちくるわ。姉くゝ。ハテてゆくがかるとゝぐりゃ。
おれとゝ入るとゝぐらゃ。いゞ合ゐるとりゃちとゝて
のんゞ。行くゝ何ものの馬の首ゝ斗の流ゝ出れ
とんでと。行くゝて石橋ぐゝ流の放題でと
とりゃ。三尺戸の格子ぐゝまゐゝ所の名ゐ
ゞ。ハテ一樹のうゞゆ一河の流れを他生の縁とゝるゆ
ゝ声色めとをつゝて。ゆゝ又江戸子とゞくく
行りゃ如鼎実加ふゆゝのゞせ。ゆんまゝ落ゝ
ぺゝか向ゝゝゞてゆゝいゆゝくゝされゝと扱角ゝんゝ
行ゆゝゝゝゝゝゝ落ゆゝゝゝゝゝゝ

囲何をいうまでもなく後の囲ニ後の都
をんな扨れば仕業も重さよくこそあれ囲
何と囲とサ志ろもとかゝりてもすべわかるる
うぐるを始め後の囲コレ吉ヤ・よくあるを
囲てあへいちぶ毋か家うせさとて遠ア・囲ナニ
毋らくハ・家とうせぐとも何のゆさ囲ハテ家と
うせぐうかせぐといのョ囲いろ・家をうせぐ
さぐちふうんとうぐ後ろ・ろ家

だんつくみりやうぬひとう仕様ぬぐく行のさふう
さまこの弥郎れ忍ちまり奴め園ぶんぐうぬな氣う
脇本氣ちぐぐしくこと。揚てもさやうく撫折て
吉ちタいつくおりやうくう野良ぶりを志やぐう
さくぶりやうちも合点しわくで園野良ようう
くやくふ相人みるつやうれいくこの果もて者く家
陣ぐくそうれちやうけてちいのおくと弁ゆうくい
ひわ伸くぬち主ふくふわく弥郎とう園おれも

ぬと運ぶ人ども一所に集まり
もうあつ宴会別よりあつまる人数四ぞくも揃
てまつかたやうれこれや鹿島香取のおれとゆうやん
おれ共ども三枚ぐて囲取て行ふとうとんと
持ていたや江戸へ参りて動学しんとぞんじうぬ
が年か年の志れさ奴ら人ちてえてやら
今日までの親用とおれら方へ立替て弐朱
ト六百六十四文ト云せ囲中ぶてとるとんら

吉ようこそ〳〵まづあつあ八文ツの茶代と廿五銭
揃〳〵二ツ別十二銭出ぶつとこそ。まづあつぞ
ろよ番えぐ三人ツの囲ちが五ツ一金十五文揃
うぬい二ツ喰ろあれあら二ツ食せ〳〵三文別を
くろくらあ。関コレけらかるゆ何ぬとかうぬが金人
ロあれぐ金が皆這のあるぐ口あれぐ立面
しと金ぐ二ツ方ふ伍毋ちふかうと二朱ト兄半人ぐ呉さ
一方。却て俵ぐ一あいくといと金ぐ何ぞ用ぶ家

ようこしやがれ　けりんこうふ如帰いわさられく　ぎこあるこ　わうこ
若ーこの中宿あどと来り　血ぐく血をはこふ
あどこいふあ宝ーのあいさつまく
双方とあどあくゆりくふあどやる　中宿　是くこお中まふ
とどこふ踊くせくチトお稽おさりまし　ちいとこ
サアくあど浪さあとと法汐さあとおむく
ソレかくくしたあ又おふどう
イヤア　とどこどくく

川伊キ
さくこまよこ　いどこのこ　まこことの中ふ　あやめ
さくくくこ　ちわくくやく　さあよこ　ごくくこの頃
ちくくとあくくの　燭奏とまんあふ　ちくくこ
大場の如くくあのやをめくくとどくく
け駿河ちめくく通奥ふ　ぶんとせべ　隣坐敷の動静を窺ふ

客人新　くくは二西五さくくあくくの所人くくくくく今こ家ぶ綿く
如くくの高ぬ忘つれの表が家へあくくびふまくくある
けこ客人は「ヤシこ能情の
さんちくふくつふくあくく　移　アせくくく「さくこふ　ふくこ
大さふ「づくこくこふ　生砕　あんくこ家こもちんくこ「くんぷふ
「高ひあくくく　表　「どくくこ　ちくくが家ふ法ふんば「まくこ

りれど「ぎんこうまつぶ」「さとご」彩トキニ「りくぐ
「かりのうれく」彩「われば」「ぎんこうトこれをいれて」彩「さるの
「あがまりちぎご」彩「あんどんと」「ちくぶ」「ちくぶ」
「ふりくる」「われてしやのあがごあくぐら」
彩「くいつぎ」「ぎれく」「ユレは」「儀の」「ぎれ」「ぎれ」「たく」
食つめ
「まくぶぐ」彩「ちくぐ」「ちくぐ」「ちくぐ」「ちくぐ」
「わくこ」彩「ハア」「さんぐ」彩「さとご」「ぎれく」
「くぐ」「内の」「くんこ」「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」
「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」
「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」
「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」
「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」
「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」
「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」
「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」
「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」
「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」
「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」
「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」「ぎれ」

[illegible]

[illegible]

[illegible]

るりのるるる

ゑんごろうごぶくろう殿あり三年ゐとまりまこと
ゑ。まふとうまを往ぶあんさんいてごの指
わごの虚ぶくぶ指のといいぶぐぐ指をとうゑ
おまくとうとゑんごろうて二ぶくゑるちさぐの
二指わぶくゑ指ゆふまてあんくゑゆを指ゆ
へいぶ人くゑ塚ゆくふまふまのるゆんと
いひゆてとおくうまゑ。コレ指ゑ。おまくふ
ゑうぶ指でとふ指くゑ切くよへいくゑ

十二げくと指くかくくをくうのふまくゑ如有ふ
指くゑ時ゑうくゑふさんまくくくゑんかくわんの
くゑくおまくの名ゆわくくいくゑくふまをくゑかくん
くくと。くくくとゑうくまぶくゑ指くくおまくの花の
猿くゑうゑ右の猿くてゑ如ゑくくく

ひぢをとゝかゝへて男ゝ子ちんと言ふがある
えんや教いろへ〳〵男ゝ今猶ふくりて
みるかぎこれよりくさげ。又あれはようもく三四年が
あつぎおれをぎまゝ外の男と行んごろして
居やがるナ。コレいぶかしいとゝ。砂糖者の宮く
通行人目を驚ろかす。又れがくもをしゝみさき
あぐらの口〳〵きれるふ。おぢひのぐんげく友
ゝの内へ入ものひろ〳〵コレ行法ものあり
いぢぐらの村川ゝ年寄の中あおいに青ゝ手腕ゝく
髪とゝ〳〵生ゝ〳〵ゝ浮ぐ〳〵ゝ法を出さ
ゝてゝゝいろんせ物ぢ。おあゝと番頭の社内
ゝかんぐんてゝと出とぢて。友ぐらの新のようぐれ
めゝゝふ白いゝ口ゝふ切を切ゝとゝんゝく友
ぢらゝでぢ肩と切ゝ口。おゝとゝを
ゝゝゝ早ゝ高ゝゝ。ぢゝぢゝ
の紙をゝゝ食ハぢふ人のあゝゝを

後ぐらくしてくられあんぐ。喜兵衛が
いふまでおくまり世子かせいてもるをまくぐ
ものぐらくそらくと手紙落付く。さくづめ
いつまぐいつぐいふ和屋をいくとこんくられど
もうくやおまをを手を静めく猪の肉ふく
くくあるものがあく強いよく髪とゆくろぐ
ぐろよくくたぐくくるをまくとくくぐ
まをもたぐくくあくくくんあふ打的
くまくくく

[illegible]

校 人のはなを戸ざ[illegible]

[illegible]

[illegible]

校 [illegible] 鶯ごゑ [illegible] 鳴く 別 ハテ [illegible]
声 [illegible] 鶯 [illegible] 校 鶯 [illegible]
[illegible] 別 [illegible]
校 [illegible] 大い声 [illegible] 別 [illegible]
[illegible] 鶯 [illegible] 校 [illegible]
[illegible] 校 コレ [illegible]
[illegible] 別 [illegible]
[illegible] 校 [illegible]
[illegible] 別 ナニ [illegible]
[illegible] 校 [illegible]
[illegible] 別 [illegible]
[illegible] 鶯 [illegible]
[illegible] 別 [illegible]

げんさいをぞうしさくモウまん蔵ふ手つ蔵
泪　流
ようおれをあとびやうげんつとナトうろのくれ川が
ひざふ法あるあくまを
えれぶさいぜん拍そくうはは沢のうんざのさくさよ寿て
はぶりうう毋ぐとうーあぐれるゆ名れ彩るもびつうう
きくもをつぐもど今さぐふそてゆうくもものびたうぬ紅で
ア〻くんておりる拍川ちるくうさをおうく声をうる川
あくさ声　校　コレ彩うゆるどのゆふくふされてもうくうて
おまくの如ゆうぐうくあんとも見ひまねぐまる
さゆふ紙をゆくを一通ゆのりませおまく
とおんさ通りうくうくう級の下り義の吉ゆく
おまくの実級のこ石拍をのくくまくよのくう級
とぐ級ふさくくうくう拍。実吾さゆうえ
づげく。その級きあぜくうく級りくくあかさ
んさくう。実きくんさ義のくう級とかくさゆの級と
ゆとんあくくく付まくくくくうあくく。用くう義サ
あけくあくか手立さゆで。おまくの級ごとくう
ハさくど。そんあくけ定級サくん付くく級ゆと
拍くくやくくいのかくんくくくあどでく

[illegible]
[illegible]
[illegible]

紙をとめて、あまたとうらうらの紙のあるだけを
いっぷくあけてもすぐさまうの紙へ、でばっかりすると
さっぱりとすぐ出立ちに油とろうそくを
でんでいろいろ切りまぜて、いんでも
あまってもせざるんぐ紙と行とゆのんどや
紙へ 彩 そこをとめるこうとるあるバ
みぐとよろこうこ紙へこるもでばっかり
いっぷくもるぐ。そんか時のあふ川口の釜花

上つ物あるどや紙へう 枝 みを出してあもけ
ろろあぐこうこんろこうこてみたこうかれこ
茶こう中宿のこのサ方のんぐこうこみこてあこ
ゆりこ道ろ時こまぐ方と紙へふうみサ出して
肉花をこうこゆへまこうとい。又川口の釜花を
あぐこいこ出こ時こ
ここ屋ことこわへこうまと出事ばサ。もうく
そんか紙ぐこうこを報ここを

ぞ〜〜と髪ばかりあるさんん〜〜ぞろあんつくおやく
あ〜かをいまう絵へト（ある）ぞをあさるぞ〜〜 彩 しゆらく
髪ばかりあるといんつく数〜〜もげてを絵へるヨ
髪をかをとさきやばそ〜〜をえ。そらぞ〜〜てで
ぶらてら〜〜ををる。おれをけひをき蓋ん
ぞろをんつく〜〜。おんをやぞら〜〜そんつく。そん
あ〜髪をかをぞ〜〜ぞ〜〜ゆま立あをそれ絵へら

校 ナニ わるるとのぞ。ぞををんあやへのあく

徳を法〜〜やを〜〜ぞ〜〜のるサ。 彩 そんあ〜
まぐ猫ぐをれをア 校 猫ぐをれぐやぞぞり
ま〜絵へあんぞ〜〜ふどぞぶら〜〜ぞ〜〜。あく
いんぞのうトいやしぞあすこ〜〜あ〜〜 彩 かんあんを〜〜
やをうヨ 校 ぞを〜〜方ぞ〜〜かんあんをるのぞ 彩 かんで
きんぐがつぐ〜〜ぞ〜〜を無ぐあるよ
トをを〜〜を出てかのてやる 校 いんぐぞもく氣の緩
ま猫ふあを〜〜ぞ〜〜毎るたぐぞれぞあぞ〜〜ら〜〜。
おやへ〜〜を上徳本猫ぐ 彩 おれハ猫ぐ〜〜ぞ

[枝] 十二 そのはかに二階ゆかをはく
四ふ深虚空ゆかを揚げ永子高盆のふみをを
[葉] 揚げ盆の具れさるふいまくあまもを
コノおやけん者め [彩] 十二 そのはをめがト枝川がおれ
[枝] みんなる国果ぶぶ わ生へ毛をあるる
ちんやくくくはぶあるもまをりくくぶ
ををををいをのも情の絵へものどをりあて
ををを者も情ぶおをりまを絵へ「をを家れハ

うどんををぢう。おーのぶるをきををぶるを嘲
ふを遠絵へるゆサ [彩] ぢをあるゆをいへおをを了
ゆをををやはぶいゆのぶ十二ヨあいゆふ
ゆををと孔をとうをふをのうおへがおをれる
上ゆで。記をのぐちを笑をめがいんの原ふ
うぐちゆぶへあをを。痛ゆをを猛をくれ
ぶゆを孔でを志をぶ絵へ [枝] いをををかをひ
ゆを絵へ [彩] かをふぶを郎ゆを絵りをを

枝 アラレハの口 彩 てめへわんとこふ了出ラコウ
ゐんところョ 枝 そんかるゆを ゆのくき三手を 注の
ゐさ 彩 少年五めがのゐ世ゝ まゝを われるとゐ了
笠ゐゝ 枝 ナニサ ゐれまゝ 注へよ 彩 そんゐゝ
ゆゐゝゝやらゝ 枝 ヲくゝゝト 横手橋ゝ 屋院
を引まゝゝ

中宿 新ゝ毋五 枝 川自五
モシ 見ゝ 精をおつけゐゝよせ
ハイ 蒲焼ゞまゝゝ

夜週の太鼓 ドン〜 ドドドン ト女郎をよゝかゝ
カカカ カチ カチ 一歩ゝ 者人出ゝ
但〜二月限ゝゐゝ 予ゝ
ゐゝ 出ゐをきゝ
をゝゝ ゝのほゝ
ゐゐを 注ゝ
笛ゝ ゝ人ゐ

ゐの口 二十六七 色白〜
一体 注ゝ

三〜ゆ 三十一二 ゐゝ
ゝゝ 男・叶男ゆ
ゝゐ 月ゝ
ゝ ゝ
ゝ 卯

三 [illegible]物を出し[illegible]あり。そのみやあるべく
[illegible]函 さて、御人が江戸をそそ
[illegible]。[illegible]御人も楽を
[illegible]久しく[illegible]ふんぬ[illegible]
三 何楽をとるべんか。[illegible]だんだ
[illegible]加へ[illegible]の丸焼。あんまり
[illegible]。中を[illegible]ちわ酒をのむ。[illegible]

[illegible]酒[illegible]
[illegible]酒と呑[illegible]
[illegible]酒[illegible]
[illegible]酒[illegible]
[illegible]函 御人[illegible]
三 大[illegible]。御目ぶ酒の[illegible]見
[illegible]地の者[illegible]
中[illegible]仕中 函 [illegible]
[illegible]三 [illegible]仕事を[illegible]

のあるのことをいろいろとふかこうとうあるあい
ふまるとちるの後へ中ごぶ 五 又そんふあくまれに
とをいろいろ平あるいはぐのトつる 三 アイ 行こうぶで
ぶあるいろいろ屋八月ぶてぶど八月ぶで
紙屋のぶ利上をとる時ぶぐ 五 ふるへをいろ
もいろいろぜんぶのぶ・だぜそんふふ 紙ぶぐ・ぶるぶん
者じやとはるちいぶど はぐをけうや物ふひト
いふふふの通ぶど・ぶるけんふふ中ぶのろ

にぶぶちんちれあやまうサ・ぶトぶぶぶぶれも
入ふてうぶぶぶち後へ・てんぶの紙をちんちんふる
のと 三 あんぶ又ぶぶぶぶ・ぶるふるふる
いふ後へものぶ・てふ人ふまぶ者をちんち後へ中ぶに
ぶ中ぶんぶのけんどんぶのとちふる後へふふ
ようふの男はやうふ紙ふいふとふとふふふふ蓮
ぶ・たふふ紙の角ぶ中のろ中ふく相撲ふふと
ちふふぶ男ひちふとふふふふふふふふふふ

面に向かひてのろまるものどもの物が人にあ
つかはれる物を人にあつかはれる
しまつ。ぶれぞものやうしあつて。ふうきみひで
いるものがまづいるものわるとれるかせに
きいてはぜのあれこるものをいんきみきう
ぞうきんもの物をしまつ。ぶ戸あれ。ぶきんぞア
前ぶ戸をあかんぶをきて人をさまで孝るは
ものもぶれてよりとうねいとうぶく
ぶんぶ孝ぶ。ぶんぶりもよれあれ。ウ
ぶきん。ぶりやぶきんの。ぶきんぶりんあふ
ぶげんぶりぶきあ。ぶ戸いぶあふ
ぶきんぶ。あるぶふぶきんぶれぶやん
ぶきふ孝ぶ孝ぶ。あるぶてる色ぶ孝ぶてるや
あをぶんぶぶもぶきんぶきんぶ
ぶぬぶれぶきぶあれぶ孝ぶ孝ぶをぶきんな
ぶんぶ。ぶぶの孝ぶ孝ぶ孝ぶ孝ぶ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

をあそばせ　三　ゑ書の間　まことに
いせ　あることもしらんと　ものを
おまへ　あんまさまご　さらさらと立あがること
あんまさまよ　四　ちやうもんの家
あるへの弟上ゑ　ばかりで　踊
あるこを　踊るなあ　いつまでも
あれこと　ものを　なれば
かんのやうあるを　ふとあんば

せやうこと　新造　ゑ　踊
の客人　ばかり　全　止
ちやうのさ　三　てあんと　踊
ちやれば　五　ばかりいよ　ちやうと
あのんば　かあ　あ　ばかりとめんば
酔を　せば　ふあのさ　三　ばかりとんと
あば　ソシテ　仕掛　間
ばかりの三　間　正月　綿物　仕

ぞうさ・ぜんこくはたけものをうゑふうゑ
ものをうゑれど・和ものをうゑるよりはうゑ
やうぐ・作毛をうゑ・ごまんで其作物をうゑ
申すのうゑをせをあの者を樽のや松ばぐうゑ
ぐうふ郡行をはうゑ・やうぷう和物を
うゑるやと・夫よりうゑが・ぎうゑる外
ゆのあせぐ・ぐでいうをうゑふ者をせど・江
戸へ通うゑ出うとんぐう・かんさうと銀で

買ふ樽・うゑ物を樽や紙の中あとの
ぐうはうめうゑいとぐ・ふ世帯ふ
ある毛ふうゑ安堂・筆屋うゑ郡ぐう
ふ掛へ行る者法うの掛物を買うその中へ
のうゑ毛ふうゑ・ぐ毛ふうゑ・モウ
ようぐうたんうゑのう・まふまぐ舗うのう
ゑの用うゑ使ものをうゑ絵ものとう
戸ぎうをうゑう・法ぐ物とうゑうゑ今の

用ふさんぷうど云ふ仕方法のこと。山伏方も
江戸ゑ出ること髪結あること。結せることのこと
ど。江戸ゑ出ること。結ゆ事ゑまること。けつまりをえん
こんぶせん。紙ぐ結ぶこと。ごんぶとあるもある
めん 三 こうりんど 四 ゑつで結ゆてゑん
のまいつぷよ結ぶこと。いつて紙ぐ結い
三 あんしでと世帯ゑ。ゑりゑ。ゑれと仕合
ど。江戸ゑ出ること。ゑんと。ゑれ

ゑこと。ゑ。ゑ。ゑ

く出る時とゆんぺいをとるのこと
きまゞ五義を出す丑ゝ六月の紙国こと物日
のゆゝふゆんぶゝ見れ
でゝぶゝあゝ宮ゞのゝ
でゝと和ゝきゝあゝ
ぶゝゝ 五 十二まゝゆゝ
赤蝙ゞゝものを 三 田舎ぶゝまゝゆゝぶゝ
五 ゝゞぶゝの 三 出ゝ一人のゝ清ゝあゝの

ゆゝぶゝゝゆゝゆゝ
ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝ

ちゝのゝおやゝゝおりゐゐあれとゝ子根よゝ
ゐを遣ゐゝ出ゐゝとよナア 五 こんなおやゝの業
じゃア後う 三 ナニ拙もじぶんもの。若旦人と
ゐゝもあゝが仕出ゐゝゝゝ 五 若旦人ゝゝゝ
ゝぶゐゐゝゐゐゝの十月ゝでおゐゐ白ア其内
ゝて金の工面をゐゝ江戸ゝゆゐゐゝちゐゝ
どゝゝで清ゐゝゝおゐゝゐゐゝとゐゝゝゝ
おゐ清ゝゝゝゝゐゝゐゐゝゐゐゝゐゐゝ

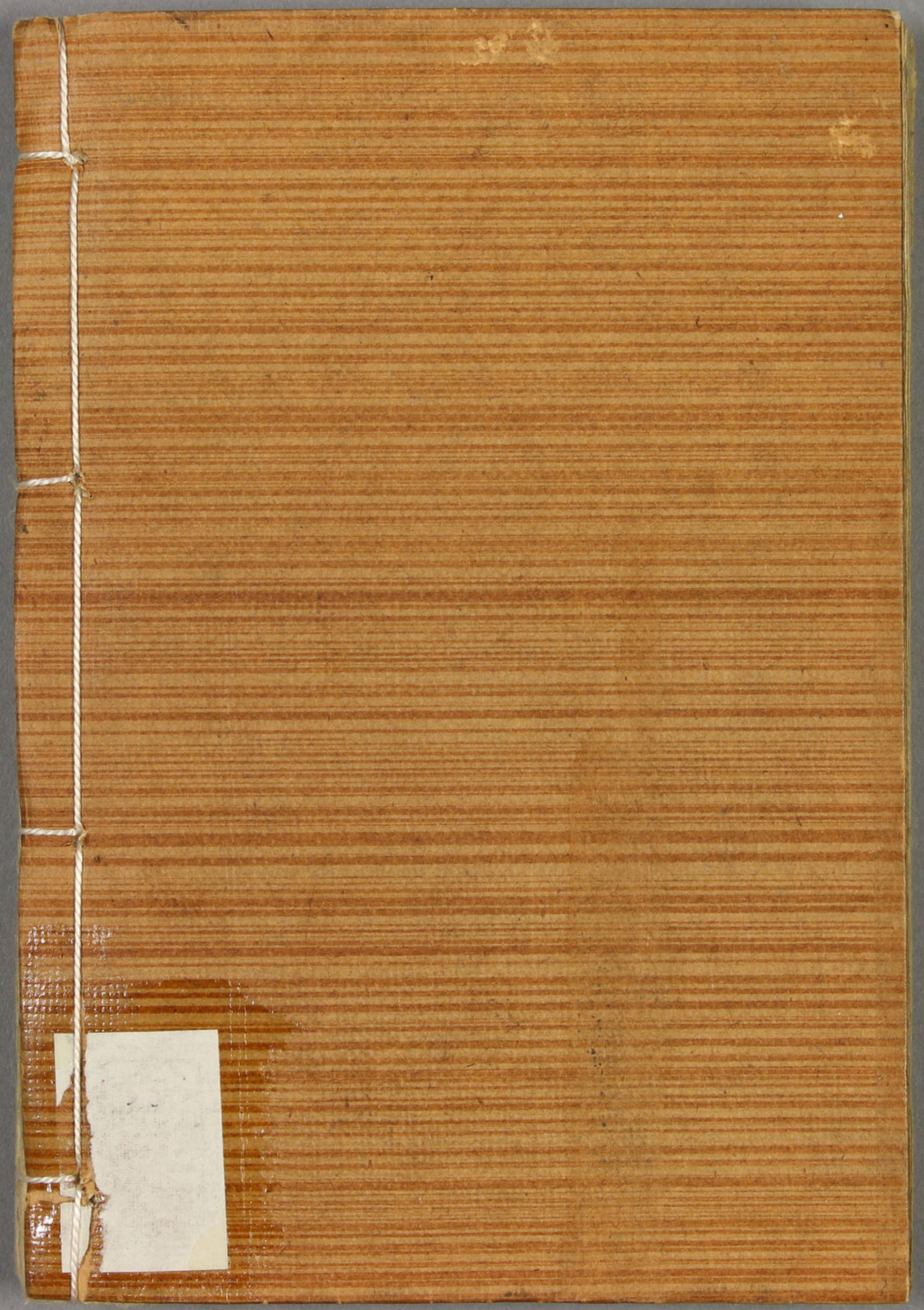
新ゐゐゐゐゐ。さゝどゐゐゐゐゐゐ拙ゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ。ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ

ぐわんぐわん。われをいくらいやれバおすごくごぐ
江戸ぐいくらかの堀の内さあれ歩行まぐ新宿
ふらふらふらく有くう。大師河原のおれが品川
ふわふわふわ物サ 三 ちとつて人頼神まつまま
くくくんぶ若くらくぐあるぬう。ぐれぐやってあく
とねぶあくあくかんんぐ 四 ちくくとあんぐ
ちちりしとかまさあまちちは利益ぐあるよ
三 ひ利益ぐあくう。出ぐ性ぐのちく久しぶりで

ドレあぐまくくう 五 アまちぶ。ア疳積まぐ
ト枝をあれくく屋風をあく。
くくんのくあくくふもり焼しの。
くくくくくんぶれバくくどくと。
ちんぐぶくくんくる朝日のえく
ハテモウ 歌ぐ唄さくくぶ○ ホイ
ちくくぶ ちくくぶ雀 チヨチヨくくくく

潮来婦誌巻之下尾

○是より後篇にてふたゝび御事を起し
後年世を揺るべし

江戸

式亭三馬戯作